

小学校
5 年

「銀色の裏地」

～学びを広げる関連図書コーナーの活用～ 八尾市立龍華小学校

教科	国語	単元名	銀色の裏地
----	----	-----	-------

単元でつきたい力

(教科等でつきたい力)

登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉え、印象に残ったことについて、表現に着目しながらまとめて伝え合う力

(学校図書館等の活用でつきたい力)

関連図書を読み、他の作品と読み比べることを通して、物語の見方や表現の仕方の幅を広げる力

本単元で育む学びスキルと学校図書館活用スキル

D-STEP 3, I-STEP 3

G-STEP 3, R-STEP 3

該当番号の詳細内容は

「大阪府情報活用能力

ステップシート」から確認できます。



単元における学習の展開 (全 9 時間) (学校図書館等を活用した時間に☆印)

第 1 次 (1 時間)	・教材文を読み、学習計画を立てる。 ☆教材に関連する図書コーナー (石井睦美さんの他の作品等) を学級に設置し、単元を通して自由に選ぶことができるようにする。
第 2 次 (3 時間)	・表現の工夫に着目し、中心人物とその他の人物との関係を図に表す。 ・描写を基に、登場人物の相互関係や心情を捉える。 ・登場人物の相互関係や心情の変化をまとめる。 ☆ことわざや作者の思いなどの問いを追究する中で、図書コーナーに置いた石井睦美さんの他の作品を選び、表現の特徴を比べ読みする。
第 3 次 (5 時間)	・登場人物の心情を変えたものを考え、印象に残ったことについて、自分の経験と重ねながら考えをまとめる。 ・物語の感想を友達と共有し、考えを広げるとともに、物語の読み方を振り返る (本時)。 ・パフォーマンス課題「私の銀色の裏地～見上げた空は～」に取り組む。 ☆単元末に「この本、読もう」として、図書コーナーで出会った関連図書を紹介し合う時間を設ける。

本時のねらい

登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉え、感想を交流することを通して、自分の考えを広げ、作者の思いに迫ることができる。

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	★学校図書等の活用により期待される効果 (言語能力育成のためのポイント) ●指導上の留意点等
導入 (5 分)	1. 本時のめあてを確認する。 ・バタフライチャートを見直し、それぞれの根拠を確認する。	★既習の学びを想起し、本時の見通しをもたせる。 ●みんなの問いの一覧やバタフライチャートを掲示し、これまでの学びとのつながりを意識できるようにする。
展開 (35 分)	2. 作者がこの物語で伝えたいことは何か。 【問い①】 『高橋さんは、理緒の気持ちに気づいていたのか。』 ・「気づいていた」「気づいていなかった」双方の立場から根拠を示しながら対話する。 【問い②】 ・『お母さんの『いい天気』はどういう意味だったのか?』 【追発問】 ・『作者がこの物語で伝えたいことは何か。』	★図書コーナーで出会った石井睦美さんの他の作品の表現と比べながら、人物の心情を想像する児童の姿も見られた。 ●意見をつなぐ言葉 (「〇〇さんの意見に付けたしで」等) を意図的に使わせ、意見をつなぐ対話を促す。
まとめ (5 分)	3. R80 (1 文+接続詞+1 文 で 80 字以内で書く) で本時の学びを振り返る。	★関連図書に触れたことで、物語の見方や登場人物の捉え方が広がったことを実感する記述が見られた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

単元の導入時に、教材に関連する図書 (石井睦美さんの他の作品など) を集めた図書コーナーを学年の廊下に設置した。問いを追究する中で、児童が関連図書を選び、視野を広げながら読みを深める姿が見られた。

単元と学校図書館活用を関連付けることで、教科書の中だけでは得られない気づきが生まれ、読書や文学作品への意欲そのものも高まった。今後も、単元の内容に応じた選書や学校図書館担当者との連携を工夫し、日常的な読書活動と国語科の学びをつなげる実践を重ねていきたい。



作者がこの物語で伝えたいことを友だちと考えている様子